授業科目	日本語教育方法論演習Ⅰ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	矢野　花織						
授業概要	本演習では、「日本語教育方法論 Ⅰ」，「日本語教育方法論 II」　で学んだ基礎的な知識に加えて、外国語（としての日本語）を教えるために必要な技術を身につけることで、日本語教育の実際の現場で生かせる素養を養う。 日本語教師には、人前で分かりやすく説明をしたり、必要に応じてティーチャートーク・やさしい日本語を使ったりする力が求められる。そのため、授業ではこうしたスキルを高めていくことも意識して、学生によるディスカッションや発表などを中心に進めていく。						
授業形態	講義・演習			授業方法			

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 模擬授業体験を通じた学びに基づき、教える際に気をつけるべきポイントを感知できる。 2. 教師としての自分の言動を意識化できる。 3. 座学だけでなく自分やクラスメートの実践から学ぶことができる。
理想的レベル	学んだことを、自分のことばで他の人に分かりやすく説明できる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	20%	
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%	
レポート外の提出物	20%	
その他	30%	授業への積極的参加とします。

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	-

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
授業に関連する事項について、提示された課題あるいは、自ら予習・復習を行い知識を深める	4

授業計画	
第 1 回	オリエンテーション 授業の概要、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。
第 2 回	日本語の教え方の基本 外国語を学んできた経験をもとに、外国語としての日本語を教えるイメージを体感する。 ティーチャートークの特徴を理解し、実践練習をする。

第 3 回	日本語の単語 日本語の単語の種類と相互の関係を確認し、その教え方を考え、指導を体験する。
第 4 回	日本語の音声と教え方 日本語の発音、アクセント、イントネーション、リズムについて確認し、その教え方を考え、指導を体験する。
第 5 回	日本語の表記と教え方 日本語の表記や漢字の導入などについて確認し、その教え方を考え、指導を体験する。
第 6 回	日本語の文法と教え方① 文型に関する知識を確認し、その理解を深めると同時に、その教え方を考え、指導を体験する。
第 7 回	日本語の文法と教え方② 名詞文、形容詞文や動詞の種類などに関する知識を確認し、その理解を深めると同時に、その教え方を考え、指導を体験する。
第 8 回	日本語の文法と教え方③ 普通形、受身形、使役形、意向形などの文法を復習し、その教え方を考え、指導を体験する。
第 9 回	日本語の構造の確認と指導体験 これまでに学んだ単語・音声・表記・文法などの日本語構造について、ペアワークによる指導体験を行う。
第 10 回	日本語の練習方法－ドリル－ ドリルの役割と種類について学び、指導を体験する。
第 11 回	日本語の練習方法－会話－ 会話練習、タスクなどについて学び、指導を体験する。
第 12 回	日本語の授業を見学する【オンデマンド】 日本語学校等の授業動画を、必要に応じて一時停止したり、気になるチャプターを繰り返し視聴したりしながら、ポイントを記録する。 教師の説明、指示、質問、訂正、励ましなどの発話、板書の組み立て方や、動きなどを観察する。
第 13 回	日本語を教える・学ぶ（１） 担当者（グループ１）は、視聴した日本語学校の授業を参考に教師役を演じてみる。 学習者役は学習者になりきって模擬授業を受けることで、学習者の心理を擬似体験する。
第 14 回	日本語を教える・学ぶ（２） 担当者（グループ２）は、視聴した日本語学校の授業を参考に教師役を演じてみる。 学習者役は学習者になりきって模擬授業を受けることで、学習者の心理を擬似体験する。
第 15 回	まとめ 前期で学んだことの振り返りを行う。
テキスト	『日本語教育のミカタ ―対話で具体的に学ぶ新しい教科書―第 2 版』荒川洋平(凡人社)(2021)
参考図書・教材	高見澤孟(2016)『増補改訂版 新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』アスク

／データベース・雑誌等の紹介	
課題に対するフィードバックの方法	随時ふりかえりの時間を設けるほか、必要に応じて個別フィードバックを行う。
学生へのメッセージ・コメント	模擬授業体験・教材作成等、「実際にやってみる」ことが多い授業です。 試行錯誤の中から、たくさんのことを学んでください。